

名刺のあれこれ



皆さんが使用している一般的な名刺のサイズは91mm×55mmです。なぜこのような中途半端なサイズなのでしょう。

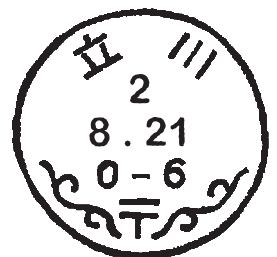
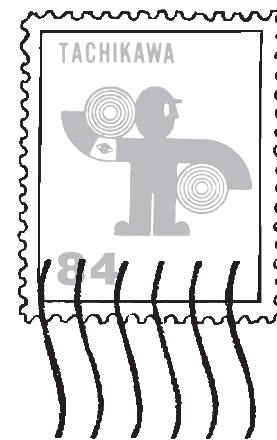
名刺の起源はフランスだとされていますが、当時の規格は82mm×57mmだったそうです。

日本の名刺もそれに倣って作られましたが、昔の計量法で尺や寸を用いた尺貫法だったことで現在まで91mm×55mmというサイズが一般的になってしまったそうです。1寸が30.3mmなので1辺を3寸と決め、もう1

辺を黄金比を用いて決めたそうです。

名刺文化は世界各国様々なようで、欧米では挨拶の際は必ず握手をします。名刺は連絡先が載っている紙という認識のようで、交換すらしめないこともあるようです。

コロナ騒動で名刺も電子化が進んでいますが、お互いの目を見て手渡しできる日が早く来ることを願っています。



発行／株式会社 立川紙業 〒190-0023 立川市柴崎町2-7-6 / TEL：042-527-6111(代)
FAX：042-528-0080 / HP：www.kami.jp / MAIL：tp@kami.jp



自転車に乗れるという不思議



増田 脩

「なぜ自転車に乗れるのだろう」と思ったことはありませんか。結論から言うと「子どもの頃一生懸命練習したから乗れる」からだそうです。しかし、この答えだと同じ頃覚えたはずの漢字の書き順や台形の面積の求め方などもバッチリ覚えていないと納得がいきません。(一生懸命覚えたかは定かではありませんが…)納得のいく説明を得るためには、私たちの脳がどのように記憶しているのかを知る必要があるようです。

脳の記憶領域は「長期記憶」と「短期記憶」用の2つの領域に分けられるようで、「短期記憶」は電話番号を数分間だけ憶えておく程度の記憶用に使われます。ここは記憶を留めておく情報の容量に限界があるようで、長く憶えておくことができないそうです。一方「長期記憶」は手続き記憶と陳述記憶に分かれています。(※下図を参照)

短期記憶		
長期記憶	宣言的(陳述)記憶	意味記憶
		エピソード記憶
	手続き的(非陳述)記憶	手続き記憶 プライミング

モンテアルパ
46判 79kg
を使用しています。

さらに陳述記憶は「意味記憶」と「エピソード記憶」に分かれ、エピソード記憶とは、個々の経験や体験、いわゆる「思い出」領域です。思い出は同じような経験を繰り返すと記憶があいまいになるそうで、何度も繰り返されたエピソードは「意味記憶」から「知識」へ変化します。勉強して覚えた知識はここに記憶されています。失敗や恥づかしい経験から覚えた知識を忘れにくいのは思い出が知識と紐づけされているからだそうです。

自転車の乗り方が記憶されている部分は「手続き的記憶」という部分だそうで、体で覚えたものは多少ブランクがあっても忘れることはありません。自転車のほか水泳や楽器の演奏、車の運転なども同様です。この記憶は「乗れる」「弾ける」というあいまいな情報を半永久的に記憶しておくので多少ブランクがあっても慣らしていくうちに思い出していくのだそうです。記憶する場所を詳しく知ること、反復して学習することがいかに大切なことが分かると思います。物忘れが多いのは年のせいだ、と決めつけず、その日あった出来事を思い出しながら復習することが記憶を長期的に留めておくことにつながるのかもしれません。(弊社営業3課員)



かき氷の歴史

店先で「氷」という吊り旗を見ると「夏が来たな」と感じずにはいられません。ひんやりとした口当たりはもちろん、削られた氷を見るだけで涼しさを演出してくれます。

かき氷の歴史は思いのほか古く、なんと平安時代にまでさかのぼります。有名な清少納言の「枕草子」に記述があり、冷蔵庫など無かった当時、氷は非常に貴重で高価なものだったそうです。

その後江戸時代までは高級品だったかき氷は、明

治時代に入り製氷機が開発されたことで身近に感じられるようになります。それまでは氷はカンナで削って食べていましたが、明治20年に現代のかき氷機に近いものが開発され、薄く削ることができるようになったそうです。

余談ですが、かき氷を食べて頭が痛くなる現象を「アイスクリーム頭痛」というそうで、これは医学的な正式名称です。



残高確認書返送のお願い

経理部より皆様にお問い合わせ申し上げます。

弊社は8月が決算月となっております。つきましてはお取引をいただいているお客様に、7月31日付または8月20日付の請求書と共に「売掛金等残高確認のお願い」を郵送させていただきます。

お手数でございますが、金額をご確認いただきお客様の社名を記入・捺印のうえご返送くださいますようお願い申し上げます。なお、目隠しシールを同封させていただいておりますのでどうぞご利用ください。

業界の動き

大人気の「ヴァンヌーボ」にさらなるラインナップ登場

ラフ・グロスのトップブランドとして注目を集めるダイオーペーパープロダクツ(株)《(株)竹尾専売品》の「ヴァンヌーボ」シリーズに、この程デジタル印刷向けNew face「LT/FS」が加わり、さらなる充実のラインナップとなりました。

このLT/FSは、今業界で注目の最先端HP/Indigo デジタル印刷機向けに、高度な印刷適正と豊かな風合いという相反する二つの性質を見事なまでに両立させ開発されたもので、従来品同様ヴァンヌーボシリーズならではの独特なラフ感とオフセット印刷に近いグロス感を高レベルで再現させています。

LTとは、LiquidToner(液体トナー)を意味しますが、

従来のオフセット印刷にも高レベルで対応できます。これまでのラインナップ同様、その用途は無量大！

ヴァンヌーボシリーズは、これからもさらなる進化を遂げつづけるでしょう。

- 規格
- 四六判Y目
- 105、130、150、195 kg
- 642mm×942mm T・Y目
- 74、91.5、105.5、137 kg
- 色=1色
- (HPindigo 認証を年内取得予定)

今月の使用紙

モンテアルバ

■規格

寸法	46T.Y	キク/T.Y
g/m ²	連量 (kg)	
92	79	55
100	86	59.5
115	99	68.5
140	120.5	83.5

今月の TP 通信は日本製紙(株)の『モンテアルバ』を使用しています。

独自の嵩高技術により、低い坪量ながら高い紙厚を実現したやさしい風合いを持つラフ調塗工紙です。また、高白色で柔らかいという特徴も合わせ持っており、書籍・ムック・雑誌・カタログ・小冊子・カレンダー等々幅広い用途でご使用いただけます。

残暑お見舞い申し上げます

コロナ禍はまだまだ先の見通せない日々が続きますが、どちら様もどうぞくれぐれも体調管理にはご注意くださいませ。

TP 通信編集室

RECOMMENDED BOOK

「今月のお手元本」内藤和さんとの思い出 その2

(TP 通信編集室)

本紙「今月のお手元本」に連載をお願いしていた故内藤和様を偲び、その足跡を振り返る連載の2回目です。先月号でお知らせした内藤様の訃報に対して、読者の皆様からお問い合わせやお悔やみの言葉をお寄せいただきました。

先月号でもご紹介しましたが「今月のお手元本」の連載は、今から5年前の 2015 年 11 月 21 日発行の 412 号から始まり、2019 年 11 月 21 日発行の 460 号までの 4 年にわたり、数えること 44 冊の「お手元本」をご紹介いただきました。

その 44 冊を一覧にさせていただきました。

一覧にしてみると、実にそうそうたる本のリ

号	書 店	著者	出版社
412	食に生きて 私が大切に思う事	辰巳芳子	新潮社
413	父の詫び状	向田邦子	文春文庫
415	飲めば都	北村薫	新潮社
416	太宰治の愛と文学をたずねて	松本郁子	潮出版社
417	幸福らしきもの	原田宗徳	集英社
418	ヒトのオスは飼わないの？	米原万里	文春文庫
419	カラスの教科書	松本始	講談社文庫
420	ツバキ文具店	小川糸	幻冬舎
421	人魚の眠る家	東野圭吾	幻冬舎
422	散歩のとき何か食べたくなって	池波正太郎	新潮文庫
423	おじさん追跡日記	なかむらるみ	文藝春秋
424	校閲ガールトルネード	宮木あや子	角川書店
425	仏果を得ず	三浦しをん	双葉文庫
427	一生モノの靴メンテナンスブック	Spice 監修	Earth star books
428	喋々囁々	小川糸	ポプラ社
429	浪華古本屋騒動記	堂垣園江	講談社
430	学校では教えてくれない！国語辞典の遊び方	サンキュータツオ	角川文庫
431	メ切本	左右社編集部	左右社
432	その日のまえに	重松清	文春文庫
433	BUTTER	柚木麻子	新潮社
434	紙つなげ！彼らが本の紙を造っている	佐々涼子	早川書房
435	自営業の老後	上田惣子	文響社

号	書 店	著者	出版社
436	舞台	西加奈子	講談社文庫
437	本棚の本	赤澤かおり	KTC 中央出版
439	おらおらでひとりいぐも	若竹千佐子	河出書房
440	旅に出たくなる日本地図	帝国書院編集部	帝国書院
441	この世にたやすい仕事はない	津村記久子	日本経済新聞出版社
442	男と女の台所	大平一技	平凡社
443	まったなし	畠中恵	文春文庫
444	耳をすませば	柊あおい	徳間書店
445	追いかけるな～大人の流儀 5	伊集院静	講談社
446	みかづき	森絵都	集英社
447	大家さんと僕	矢部太郎	新潮社
448	日は好日「お茶」が教えてくれた15のあわせ	森下典子	新潮文庫
449	作家の食卓	コナツツキ編集部	平凡社
451	かがみの孤城	辻村深月	ポプラ社
452	ゲゲゲの家計簿	水木しげる	小学館
453	木曜日の子ども	重松清	角川書店
454	本と鍵の季節	米澤穂信	集英社
455	太陽のバスタ、豆のスープ	宮下奈緒	集英社文庫
457	素材よろこぶ 調味料の便利帳	高橋書店編集部	高橋書店
458	渦 妹背山婦女庭訓魂結び	大島真寿美	文藝春秋
459	つまをめとらば	青山文平	文春文庫
460	藤城清治の軌跡	藤城清治	佼成出版社